

バイパス整備と現道を活用した地域の取り組み

北陸地方整備局 道路部 路政課

1. 新潟市南区（白根地区）の歴史

かつて海だった新潟平野は、越後山脈、飯豊山地等の山々から流れ込む信濃川を代表される幾多の河川により、土砂が堆積し、砂州が形成され、やがて湿地となり、広大な平野が形成されました。

この新潟平野のほぼ中央に位置する新潟市南区は、信濃川と中ノ口川が流れ、これらの河川は幾度となく洪水が繰り返され、住民を苦しめたと伝えられています。

昭和初期まで、人の肩まで浸かる水田で稲作が行われたほど農地に不向き土地でしたが、かんがい排水等の対策と住民の努力により、氾濫がもたらした肥沃な土壌を実りある豊かな土地に築き上げてきました。

また、舟運中心の交通も、鉄道、そして自動車の普及に伴い道路へ移り変わっていきました。



【新潟市の行政区域】

出典：新潟市ホームページより



【近世の在郷町（図中の○印が在郷町）】

出典：新潟市ホームページより

2. 白根バイパスの概要

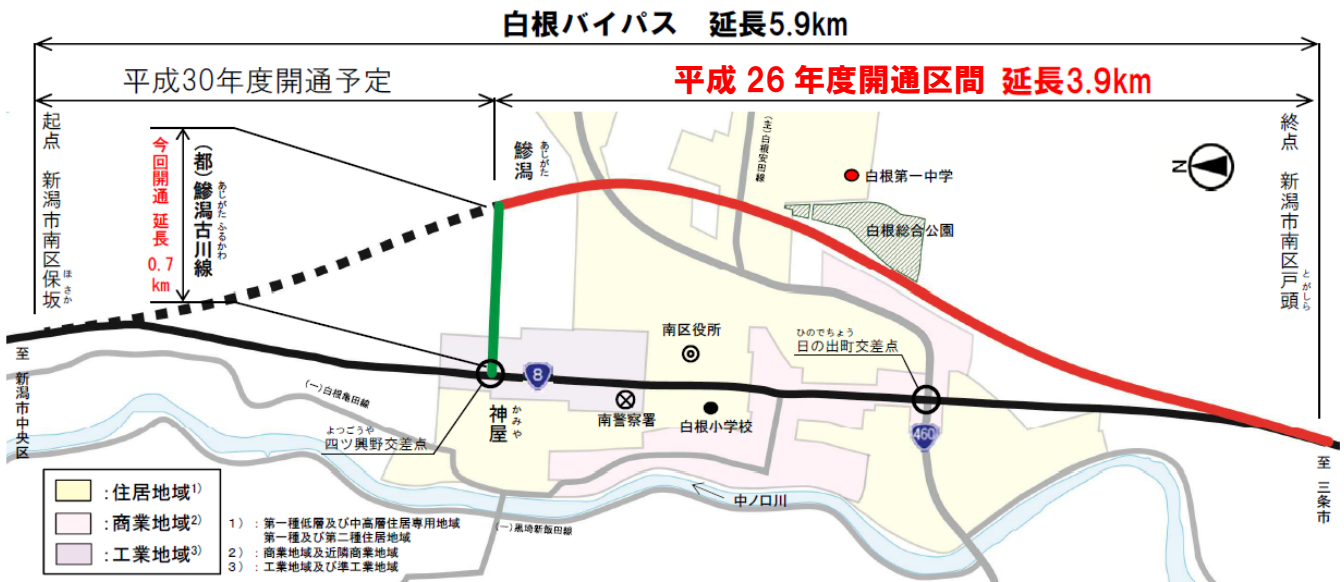
国道8号は、新潟と関西・関東（国道17号経由）を結ぶ主要幹線道路としての役割を担うとともに、地域経済・日常生活を支える基盤施設としての役割をも果たす重要な幹線道路です。

しかしながら、近年の経済成長に伴う自動車交通の増大と車両の大型化により、白根地区では交通の渋滞・騒音・交通事故など生活環境に与える悪影響及び冬期除雪障害などの問題が発生しています。

そこで、これらの問題を解消し、主要幹線道路としての機能充実を図り、他の都市計画道路と一体となった道路網を構成し、秩序ある都市の発展に寄与することを目的として白根バイパスが計画されました

白根バイパスは、平成3年度の事業化以降、平成9年度用地補償に着手し、平成12年度から工事開始されましたが、当該地区がかつては砂地であったことから、工事は、軟弱地盤を圧密沈下させるための盛土工事を先行実施し、平成20年度からは農道ボックス、水路ボックス及びDJM工法という地盤改良工事を実施しました。

平成27年3月に、^{あじがた}鱒潟～^{とがしら}戸頭間の延長3.9kmが部分供用され、残る^{ほさか}保坂～^{あじがた}鱒潟間の延長2.0kmについて、平成30年度の供用を目指し現在工事が進められています。

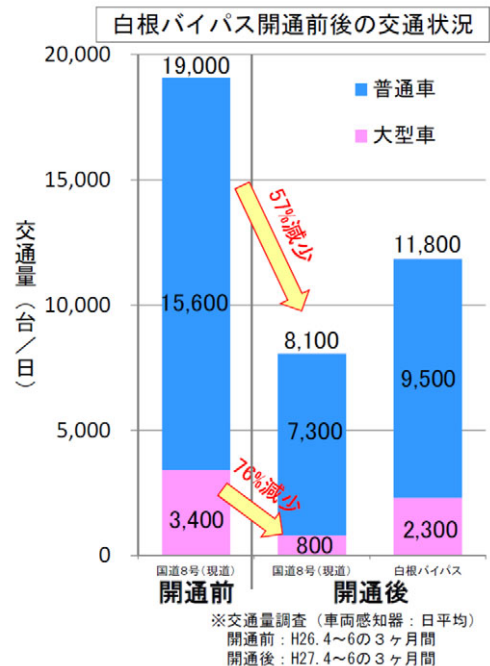


【事業経緯】

- ①計画調査／昭和59～61年度
- ②ルート承認／昭和62年9月10日
- ③都市計画決定／昭和63年12月15日
- ④事業化／平成3年度
- ⑤用地着手／平成9年度
- ⑥工事着手／平成12年度
- ⑦部分供用／平成27年3月
^{あじがた}鱒潟～^{とがしら}戸頭間 延長3.9km

なお、白根バイパス部分供用後の3ヶ月の交通量について見ると、白根バイパスに日平均11,800台がシフトしたことにより、現道（国道8号）の交通量が日平均8,100台、57%減少しました。

特に、大型車交通量を見ると、現道を走行する大型車が白根バイパス開通前では、日平均3,400台に対し、開通後は、800台、76%減少したところでは、



開通前

開通前は市街地に交通が集中
(国道8号：白根小学校前)



開通後

開通後は大型車をはじめ交通が減少
(国道8号：白根小学校前)

3. 国道8号 春まちフェスタ in 南区の開催

平成30年度的全線開通を目指し工事が進められている白根バイパスですが、市街地を通る現・国道8号の交通量や、まちなかの人の動きなどが大きく変わることが予想されます。

そこで、このイベントをとおして、誘客効果や来場者の交通手段、交通規制の影響を検証し、白根バイパス全線開通後の道路空間のあり方や、有効活用の方法など「まちなか活性化策」を考えていくことを目的として、平成29年3月26日、「国道8号春まちフェスタ in 南区～寄り道していきなせや～」（「寄り道してください」の意）が開催されました。

当日は、天候にも恵まれ、当初見込みの3千人規模の想定を大きく超える約1万2千人（主催者発表）が来場し、会場は大変にぎわっていました。

普段は多くの自動車が行き交う国道8号を約600mにわたって通行止めとした会場には、南区の食材を利用した魅力あふれる食べ物を販売する多くのテントが並びました。

会場の中央では太鼓や消防音楽隊の演奏、よさこい総踊りなどのステージイベントが行われ盛り上がったほか、北寄りの一角では、自衛隊の装甲車やパトカー、白バイ、消防車など普段間近で見られない車両が展示されたほか、企業協力による自動アシストブレーキ装備車や、コンパクトカーの試乗会も行われ、来場者の注目を集めていました。



【通行規制図】

出典：新潟市ホームページより



【通行止めの様子】



【会場の様子】



【会場の様子（歩道橋より）】



【新潟国道事務所の事業紹介ブース】



【白根大風の展示】

こうした取り組みは、昨年3月に改定された「道を活用した地域活動の円滑化のためのガイドライン」においても、地域の賑わい創出や沿道の景観向上など、地域住民や道路利用者にとっても多くのメリットが期待され、道路空間を活用した地域活動を一層推進することとしており、イベントを通じて、多くの方が「道路について考え、地域の賑わいを考える」きっかけになることが期待されます。

(参考)「道を活用した地域活動の円滑化のためのガイドライン改定版」(平成28年3月)

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/senyo/pdf/280331guide.pdf>

(国土交通省道路局ホームページより)

4. 終わりに

平成 30 年度の供用を目指し、現在工事中の保坂～鯉瀬間について、工事現場を覗いてきたので紹介します。



現道からバイパスへの取り付け部分（左の写真）からバイパスに入ると盛土が造成（右写真）され、緩い縦断勾配になっており、まるで空に向かっていくような感覚の道路になっています。

進行方向には越後山脈の雪景色が見られ、一面の景色が眺望できる新たなシーニック・ポイントになると想像すると開通が待ち遠しいものです。

道路も人も同じように世代が代わり、ニーズに合わせて、その役割を変えていかなければなりません。

物流の中心として高度成長を支え続けた道路は、世代が変わり今後は、子供たちが安全に通行できる道路として、また、賑わいあふれる空間として、地域社会を見守り続ける道路として生まれ変わろうとしています。新潟にお立ち寄りの際は、是非、寄り道してください。